



# 自然に抱かれ、悠久の時をめぐる

～帝釈峡「<sup>おんぼし</sup>雄橋」(国天然記念物)～

庄原市東城地域には、比婆道後帝釈国定公園の一角をなす帝釈峡がある。「雄橋」は、溪水の浸食作用により巨大な岩盤が長い年月をかけて貫通してできた世界でも類を見ない石灰岩の天然橋であり、帝釈峡を象徴する国天然記念物である。ここに佇むと悠久の時をさかのぼり大自然の雄大さに包まれる。東城地域の5年生は「山・海・島」体験活動で毎年訪れ、自然の植生や地形の変化、古代人の生活等について学習している。まほろばの里「<sup>じゆうかん</sup>時悠館」では、小学生が作ったキャラクターやキャプションが展示を誘導、説明してくれる。

(庄原市立八幡小学校・真加部 三智也)



発行所  
広島県連合小学校長会  
事務局  
東区光町1-11-5  
地産ビル1003号  
電話 (082) 263-6381  
発行者 市場 一也

## もくじ

自然に抱かれ、悠久の時をめぐる……	1
事務局日誌……	1
教育研究大会北部大会……	2
学校経営……	3、4

朝会講話……	5
県教委だより……	6
随想……	6
あとがき……	6

## 事務局日誌

- 8月3日 『会報一八六号』発行
- 8月25日 第56回県連小教育研究大会北部大会 (誌上発表)
- 8月27日 総務会・広島県連合小学校長会組織運営検討委員会 (書面)
- 9月2日 中国地区広島大会現地実行委員会 (呉市)
- 9月7日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (書面)
- 9月8日 理事会 (東区)
- 9月16日 教育調査小委員会 (東区)
- 10月5日 県公連理事會・評議員会 (立町)
- 10月7日 全連小三地区対策調担当有連絡協議会 (福岡)
- 10月13日 幹事会・広島県連合小学校長会及び広島市小学校長会のあり方に係る協議会 (東区)
- 10月15日 教育研究小委員会 (東区)
- 10月19日 全連小理事会 (京都)
- 10月27日 広報委員会 (東区)
- 10月29・30日 第72回全連小研究協議会京都大会 (誌上発表)
- 10月29日 中国地区広島大会現地実行委員会 (呉市)
- 11月9日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (立町)
- 11月12日 第2回中国地区理事会 (リモート)
- 11月13日 第67回中国地区教育研究大会山口大会 (誌上発表)
- 11月17日 幹事会・広島県連合小学校長会組織運営検討委員会 (東区)
- 12月1日 『会報一八七号』発行

※会場の略号

(東区) 東区民文化センター

(立町) 広島経済大学立町キャンパス

# 第五十六回広島県連合小学校校長会教育研究大会北部大会 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため誌上発表大会に変更)

新型コロナウイルス感染症のため長期にわたる臨時休業が行われ、再開後も感染症対策を講じつつ、新学習指導要領の目指す学びの着実な実現を図るといふ大変難しい状況の中で学校経営に取り組みられていることと思ひます。

新型コナウイルス感染症のため  
第五十六回広島県連合小学校校長会  
教育研究大会北部大会

そのような状況の中、予定されていた第五十六回広島県連合小学校校長会教育研究大会北部大会は、誌上発表大会となりました。大会に向けて発表者の先生方や北部地区の現地実行委員会の皆様におかれましては、時間をかけて準備を積み重ねてこられたことと思ひます。発表の場はなくなりましたが、研究集録「もみじ」に研究の成果を掲載させていただくことになっております。研究の成果を県内の皆様全員で共有できればと思ひます。

本来であればこのページは、現地実行委員長林真司校長先生の挨拶文をお寄せいただく予定でしたが、誌上発表大会となったため、大会概要を代わりに掲載させていただきます。皆様には、ご理解の程、よろしくお願ひいたします。

## 一 研究主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進  
～夢や志をもち他者と協働して主体的に新たな価値を創り出す子どもを育成する学校経営～

## 二 期日

令和二年八月二十五日(火)

## 三 会場

- 〔全体会〕  
三次市民ホールきりり
- 〔分科会〕  
三次市民ホールきりり  
三次市立八次小学校

## 四 記念講演

- 〔講師〕  
平田克明(平田観光農園会長  
元広島県教育委員会委員長)

(教育研究委員長 岡崎孝史)

### [分科会提案]

領域	分科会	研究課題	主題・副題	提案者
I 学校経営	1. 組織・運営	学校経営ビジョンの具現化を図る活力ある組織づくりと運営	明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進 ～教職員の働き方改革の取組を通して～	祭田 学 (東広島・平岩)
	2. 評価・改善	学校の教育力の向上を図る学校経営の評価・改善	学校づくり・人づくりを推進するための学校評価・教職員人事評価の工夫 ～教育目標の実現を目指して意欲的に取り組む組織づくりと評価・改善の推進～	田中 弘記 (三次・甲奴)
II 教育課程	3. 知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント	資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント ～「子ども主体の学び」をキーワードにした教育活動の推進～	池田 明子 (福山・新涯)
	4. 豊かな人間性	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメント	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメント ～自尊感情に支えられた学力を育てる取組～	坂口 智子 (広島・早稲田)
III 指導育成	5. 研究・研修	学校の教育力向上を図る研究・研修の推進	主体的に学び合う教師集団を目指して	有馬 朝路 (広島・山田)
	6. リーダー育成	これからの学校の担うリーダーの育成	「子ども主体の学び」へ 教師が変われば学校が変わる ～リーダー育成による職員の組織貢献意識の向上を通して～	塚本 智一 (福山・道上)
IV 危機管理	7. 学校安全	地域ぐるみで命を守る防災教育・安全教育の推進	命を守る安全教育・防災教育の推進 ～自ら判断し主体的に行動できる子どもを育てる 安全教育・防災教育の推進～	中野 智美 (世羅・せらにし)
	8. 危機対応	学校と子どもを取り巻く危機への対応	高い危機管理能力を持つ組織の育成 ～新型コロナウイルス感染防止対策における危機管理対応～	山田 耕太郎 (尾道・百島)
V 教育課題	9. 社会形成能力	社会形成能力を育む教育の推進	社会に貢献する資質・能力・態度を育む教育の創造 ～学校と地域の学びをつなげる取組を通して～	寺岡 成希 (坂・横浜)
	10. 社会との連携・協働	家庭・地域社会等との連携・協働と学校間連携の推進	小学校・高等学校・地域の連携に係る取組 ～防災ピクニック・観西学区の防災意識の向上を目指して～	本計 正彦 (広島・五日市観音西)

## 学校経営

### 「自らを高め、地域の事を考え行動できる

#### 児童の育成」

～学校の学びを地域につなげる取組を通して～

坂町立横浜小学校長 寺岡成希

#### 一 はじめに

本校は、今年創立百二十周年を迎えた伝統校である。校区は、国道三十一号線を挟んだ地域に位置し、公共施設や商業施設が集まり、児童の多くは、新しくできた住宅地から登校している。

本年度の児童数は、三百二十名、学級数は十五学級である。

#### 二 学校経営のミッション

「自らを高め、地域の事を考え行動できる児童の育成」をミッションとしている。その際の実践化のキーワード「時を守り、場を清め、礼を正す」をもとに、自立した社会人として生きていくために必要な知識や能力を育むとともに、社会に貢献しようとする態度を育成することにより、保護者や地域から信頼される学校を目指している。

#### 三 学校経営に係る三つのキーワード

今年度は、次の三点を重点的に取り組み、地域における児童の様子をもとに、学校の学びが適切に位置づいているかを評価しながら、学校経営を行っている。

#### (一) 課題発見・解決学習を促す授業

本校は、「よこはま学習」と称して、  
「よ」 課題発見↓児童自らが課題を設定  
「こ」 課題解決↓既習事項を活用した  
自力解決

「は」 課題解決↓児童同士の関わりを  
大切にしたい集団解決

「ま」まとめ↓課題とまとめの関連付け  
のように、課題発見から解決までのプロセスを児童に意識させる授業の創造に努めている。

そのために、毎月「授業の中で」という校長通信を発行し、授業、学校行事に加え、今年度はコロナ禍における三密防止に係る教職員の優れた実践を価値づけしながら、画像とともに、全教職員に紹介している。

また、校内の初任者研修の示範授業においても、「よこはま学習」の視点から授業がなされているかどうかを中心に、具体的な指導方法について研修している。

これらにより、各教職員の授業力や業務の質的向上を図るとともに、各教科・領域における専門性の「発掘」と他の教職員への波及効果を期待している。今後、課題解決は、AIが行ってくれる時代が来るため、人間は、課題発

見力を磨かなくてはならないという情報もあり、「よこはま学習」の「よしやってみよう」に力を注いで取り組んでいきたい。

#### (二) 自己肯定感の向上

本校の児童は、昨年度の全国学力学習状況調査をはじめとする質問紙調査において、「周りの人から自分のことを認められている」ものの、自己肯定感があまり高くないという結果が出ていた。

昨年度まで組織的に取り組んできた「チクチク言葉をなくすこと」により、児童間の大きなトラブルがなくなり、いじめ防止にも一定の成果を上げることができた。今年度は、歩みを進めて、「ふわふわ言葉を増やす」取組を行っている。これは、道徳の資料と関連付け、展開後段で、自分のよさ、友達によさ、学級のよさを見つける活動を実施して、一人一人の感性を育てるとともに、自己肯定感を高めていくものである。実際、学校行事後の作文には、他の児童や学年の良さについて、素直な言葉で表現されており、手ごたえを感じている。

今後も学校が、児童にとつて安心安全に生活できる場となることを願って取り組んでいきたい。

#### (三) 学校の学びを地域につなげる

究極なねらいは、六年生が坂町議会を傍聴して、議事内容について自分の考えをもち、表現できるようになるこ

と考えている。しかしながら、コロナ禍において、今年度、地域の施設見学もままならない状況であるため、地域に出たときの状況を想定して、学校での取組に切り変えて実践している。

その中で「挨拶・時間・きまり」については、児童の自己評価ではなく、教師の見取りで評価し、その後の指導に生かしている。また、食育の時間に学んだこと、例えば、美しい箸の使い方・碗を持って美しい姿勢で食べること、食器を丁寧に扱うこと等を、P・D・C・Aサイクルに沿って学級指導や給食指導に生かしていく取組を組織的に行っている。

このように、校内で指導したことが、どれほど児童に浸透し、自分のものになっているかという視点で、児童の様子を観察することにより、教師自身が自己の指導を見つめ直し、さらなる改善に努めることができると考えている。

#### 四 おわりに

経営者に求められる能力として、「教職員が、いかに気もちよく働ける職場をつくるか」ということが挙げられる。最前線で子どもたちに関わる教職員をリスペクトするとともに、教科指導や生徒指導及び各業務において、各教職員の成長に向けた効果的な支援を行うために、校長として自己研鑽して参りたい。

## 学校経営

### 「愛される学校を創る 揺るがない理念と柔軟な対応力」

#### 「新型コロナウイルス対応から学ぶ」

三原市立糸崎小学校長 西本真由美

#### 一 はじめに

本校は、明治六年に元三原城内の演武場（吾住館）に開校することを始まりとし、歴史と伝統を受け継ぐ学校である。外港と鉄道、大きな工場を有し、瀬戸内海を一望できる地域であり、児童や教職員は学校からの景観が大好きで自慢でもある。本年度の児童数は百二十六名である。高学年を尊敬する気風をもち、規律正しく生活しようとする姿勢がある。地域と保護者に支えられ、学校だけではできない教育の恩恵を受けていることを有難く思っている。

#### ①長期休業への教育計画改善

休業日の長期化に伴い、カリキュラム・マネジメントを即時に行い、年間計画の指導時数の再編成を行った。進捗表は週案に貼り付け可視化し、教務主任・管理職で数値をもとに進捗状況の把握を確実にし、若年層への支援にも活用している。

#### ②学力向上への取組と研究推進

「深い学び」を追求する授業の創造をテーマに研究を積んでいる。「深い学び」に向かう過程が分かる指導案形式の工夫「日常的なルーブリック評価」「思考ツールの活用」「回復力の育成」の指導方法が有機的に機能し、児童が主体的に学び、新たな思考を獲得する授業を構成していくことをねらっている。また「思考力の見取りテスト」により、個別課題を明らかにして組織的に共有し、カルテを作成して改善への取組を進めている。

#### ③信頼を育む生徒指導

日常の小さな積み重ねが、問題行動の阻止につながると考え、些細と思えることでも、「報告してくれてありがとう」と伝え、「報告・連絡・相談」を密にして、組織で取り組んでいる。

保護者には丁寧伝え、常に肯定的評価を加えるよう留意させている。当たり前のことをきちんと言うことが信頼を生み、落ち着いた学校集団形成につながっていると思う。また、学期ごとに「自分のことアンケート」を実施し、グラフ化して学級集団の課題を分析するとともに、課題をつかんだ児童には個別のカルテを作成して、取り組んでいる。

#### ④業務改善委員会

委員会で意見を出し合い、業務改善に取り組み、昨年度は、在校時間を一年間で三十二％減とした。全体で約二千時間減である。年間五日以上の年休取得も目標達成した。今年度は、遅くとも六時には全員退校している。持ち帰りもほとんどない。教頭や主任層が声掛けを行い、主任層が率先垂範で早く帰りながらも、若年層の状況をつかんで支援や助言を行っていることが、学校行事等の効率化及び意識改革と相まって成果につながっていると考える。

#### 三 これから求められるもの

予測不可能なことが生起し、柔軟性と受容力と創造性などが求められている。新型コロナウイルス対策により休業が長期化し、先行きが不安だった時、教務主任は「校長先生、今こそ授業が精選されて、何が『深い学び』に必要か明らかになるチャンスですね。」と言ってくれた。なるほど、限られた時間で授業するという意識は、発問を精選させ、ねらいと振り返りが適合し、

ルーブリックにより到達を子どもと共有するという授業の基本を磨くことになる。また、研究主任は「校長先生、授業改善で先生方が工夫した例をデーターの掲示板に載せて共有します。」と案を出し、研究だよりに「コロナに負けるな！」と題して教職員を指導してくれた。生徒指導担当や保健主事は、休業明けの全校児童の課題を数値で分析して報告してくれ、担任と共に解決に動いている。教職員の前向きな創意工夫のエネルギーに敬服した。

これからの危機管理において、OODA（異常時）が必要とされるそうだ。O（観察）O（状況把握）D（意思決定）A（行動）である。PDCA（平常時）に加えてその力を研ぎ澄まさないといけない。何が起きるか予測がつかない状況下では、校長の能力は型を超えた幅広さを求められるであろう。その時に、本校の主任のように、前向きによりよくしていこうとする姿勢を忘れないでおこうと学んだ。「ともに働く仲間」に元気をもらって、学びながら成長する。このことは、どんな状況であれ普遍的であると感じている。

#### 四 おわりに

様々な対応に取り組んでおられる校長先生方のご苦勞に敬意を表するとともに、ともに取り組むという連帯感に助けて頂いていることに感謝申し上げます。子どもたちや先生が愛情をもつ学校づくりを心がけて、今後とも研鑽を積んでいきたいと考えます。

#### 二 学校経営の実際

「学び つながり 挑戦する子ども」という学校教育目標達成を目指して、人生を自分の力で切り開いていく人間の育成を目指している。私は、校長になってからずっと「PDCA」を日常的に意識化させることと、何事も具体的に焦点化していくことを理念としてきた。点検と改善が児童の姿から把握できるかに留意して、日々指導している。本年度の、本校の特色ある取組事例について紹介する。



## 「学ぶ」あつらいふ

会員 川内直美

一学期の終業式に、中通小学校の学校教育目標について話をしました。学校教育目標のように「自ら学び、ともに学び合い、ともに伸びる」姿を、一学期にはたくさん見ることができたという話でした。

実はこの学校教育目標の中にある「学ぶ」という言葉には、深い意味があるのです。今日は、「学ぶ」の「学」という漢字について話をします。このことは四年前にも話していますので、五年生・六年生は覚えているかもしれません。

これは「学」の昔の字です。【大きく書いた「學」の字を示す】

左上と右上のフオークのような形は、左手と右手を表し、引き上げるという意味があるそうです。中央の縦に並んだ二つの片仮名の「メ」は、「交わる」「まねをする」という意味です。その下にあるのは、屋根を表します。屋根の下にある「子」は、子供、みなさんのことです。

つまり、「學」という字には、子供

が一つ屋根の下で、手と手を取り合つて協力したりまねをしたりしながら伸びていくという意味があるのです。それが、「学ぶ」ということなのです。

このように考えると、中通小学校の学校教育目標は、「学ぶ」ということの意味を表していることが分かります。皆さんです。もちろん先生たちと一緒につくっていくのです。

「自ら学び、ともに学び合い、ともに伸びる」学校をみんなできつくりましましょう。

(竹原市立中通小学校)

## 「実りの秋」に

理事 板倉孝志

先日の運動会は、新型コロナウイルス感染症対策のため様々な制約があり、昨年までとは形を変えて行いました。しかし、皆さんが約束を守りながら具体的に本気で準備を進めてきたおかげで、立派にやり切ることができました。テーマをしつかり胸に刻み、懸命に演技や競技をする皆さんの姿に、保護者・地域の皆様は大変感動されました。私のもとへも、皆さんの頑張りを称賛する多くの声が届いています。

さて、今の時期は、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋など何をするにもよい季節です。今日は、「実りの秋」についてお話をしましょう。

運動会の成功、各種コンクールでの

入賞など、今、皆さんは様々な成果を出しています。それは、具体的な目標を立てそれを実現するために日々努力を重ねているからです。「樹木にとつて最も大切なものは何かと問うたら、それは果実だと誰もが答えるだろう。しかし実際には種なのだ。」と言った哲学者がいます。果実は「結果」、種は「行動」です。結果以上に大事な物は、結果を得るために行動を起こすことです。行動しなければどんな結果も現れません。何もしないでいては良いことは絶対に起きないのです。「勉強ができるようになりたい、速く走りた

い、夢をかなえたい」。目標を持ったら結果ばかりを心配しないで、具体的に行動しましょう。皆さんの今は種を育てる時期です。

行動する前から「できない。」と言うことなく、とにかくやってみることで「実りの秋」にしていきましょう。

(安芸太田町立上殿小学校)

## 「一日一笑」

(令和二年六月一日全校朝会)

会員 雲井美紀

山の緑が濃くなり、風がさわやかに感じられるころになりました。児童のみなさん、おはようございます。

臨時休業が長引き、さみしい思いをしたり、イライラしたり、不安な気持ちになったりした人もいるかもしれま

せん。みなさんがたくさん我慢をして頑張ってきたことで、新型コロナウイルスに感染する人がだんだん減ってきて、広島県では緊急事態宣言が解除されました。そして、こうしてみんなが学校に来ることができるようになり、大変喜んでいきます。

さて、校長先生から皆さんに送る言葉があります。それは、「一日一笑」です。アメリカの有名な発明家「トーマス・エジソン」のことを知っていますか？エジソンは「笑顔」を大切にしていたそうです。ある晩、自分の工場が火事で全部焼けてしまったときも、いつまでもよくよしませませんでした。この夜の火事で、煙で視野がさえぎられて十分な消火活動ができなかったことに気づき、さっそく消防用のサーチライトを作り出したのです。

エジソンの発明は彼がどんな苦しいときも「笑顔」を忘れなかったから生まれたものだといえるかもしれません。

日々のくらしの中で、喜べない出来事もあるでしょう。休業期間は、みなさんも、「いつになったら学校が始まるのだろう。」「早く友だちに会いたいな。」「勉強が分からなくなる。」と心配な気持ちになっていったと思います。しかし、そんなときこそ忘れてはならないのが「笑顔」です。

みなさんは、一日一回笑っていますか？

(三次市立川地小学校)

# 委 員 会 教 育 委 員 会 県 だ

## 「学びの革新」の更なる充実にに向けて

広島県教育委員会事務局学びの革新推進部  
個別最適な学び担当

課長 高尾 俊 寛

「Society5.0」の到来によって、求められる人材像も変化してきており、学校・教育・学びのアップデートが必要となつてきている。

本県の現状を見たとき、これまで「学びの革新」を進めてきたが、小・中学校ともに未だ約一割の児童生徒が主体的に学ぶことが難しい状況にある。

また、そういった児童生徒は自己肯定感が低く、学ぶ楽しさ・できる喜びを感じた経験が少ないという傾向が見られており、主体的な学びを定着させていくためには、一人一人の学習進度や能力、関心等にに応じて多様な学びの選択肢を提供していく、個別最適な学びの推進が必要である。

昨年度は、本担当において、個別最適な学びの推進に向けた調査研究を実施し、推進に必要な観点等を「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」として整理した。各学校では、まずは、必要な観点の中で理念にあたるマインドセットの振り返りと共有をお願いしたい。現在、県内四地域を指定した実証研究を実施しており、今後、指定校の実践事例や教育効果の検証を行い、県全体に発信していくと考えている。

さらに、今年度、本担当に新設され

た人材育成担当においては、「学びの革新」の更なる充実に向けて、教職員の人材育成を進めているところである。

本県においては、「広島県教員等資質向上指標」の暫定版を策定したところであり、教職員が指標に照らして自

### 随 想

## 学校の存在意義とは

副会長 古本 宗 久

授業参観で低学年の教室に入ったとき、机の右側にテープが貼つてあることに気が付いた。どの机にもある。

机の近くに寄り、テープをじっくりと見ると、「病院の先生」「デザイナー」「プロ野球の選手」「ユーチューバー」……。将来の夢、なりたい職業を書いているのだ。

テープを読みながら教室内を回ると、いつも見ている児童の顔が違って見える。

教室の後ろに行き、授業を参観する。児童一人一人が小さな背中に大きな夢を抱いていると思うと、頼もしさを感じるとともに、身の引き締まる思いがした。

己評価し、現在、何ができていて、今後何ができるようになるかを考えるなどして、資質能力の向上に活用することができる。

また、今年度は中堅教諭等資質向上研修を大きく見直し、校内研修と校外研修を関連付けた内容としている。具体的には、受講者が校内研修で考案した取組を、実際の学校の取組の見直しに活用することができる。

校長には、こういったあらゆる機会を逃さず積極的な人材育成を図ることが求められている。

学校の存在や教職の仕事は、児童の職業観に大きな影響を与えるだろう。児童にとつての学校の存在意義は、「夢の実現に向けて、将来幸せになるための仕組み」であると考える。

学校は、児童が一番近くで「大人の働く姿」を体認する場である。いわば、キャリア教育の最前線である。

私達教職員が、仲間と一緒に楽しく幸せに働くことができなければ、働く姿を見ている児童も、仕事についてポジティブなイメージをもてないまま成長してしまうのではないだろうか。

学校が「幸せ」を志向し、「働きたい」居場所になることは、教職員にも児童にも大切である。

また、学校は児童だけではなく「そこに関わる人たちが幸せになるための仕組み」でもある。

地域の方々が、読み聞かせや見守りのボランティアをされたり、地域を開いて学習の機会を創り出してくれたりしている。

児童とのふれあいの中に、児童の成長を感じ、学校に関わることに、幸せな気持ちを感じていただきたいと思う。

学校は、多くの人が出会い、人生が交差する場所である。学校が、関わるそれぞれの人にとつて、自己実現ができる場所でありたいと考える。

(三次市立十日市小学校)

### あとがき

新学習指導要領の目指す新しい時代に必要な資質・能力の一つに「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」があります。

まさに本年度は、この「思考力・判断力・表現力」が、学校現場に強く求められる年となりました、このような状況で特に大切なことは、正確な情報を数多く得ることです。

今後も県連小を中心に県内の校長先生方の強いネットワークを基盤に、情報を交換し合い、的確な学校経営を行ってまいります。

県連小広報委員会も、その一助を担えるよう、今後も尽力してまいります。